

地盤構造はどこまで分かるのか? — 地盤構造評価の現状と課題

〈主催〉 日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

地盤構造が地震動に及ぼす影響を適切に評価することは、建物への入力地震動を考えるうえで重要である。近年、地震観測や微動観測の増加および観測機器の高性能化等に伴い、地盤増幅特性の評価や、それらの要因となる地盤構造の評価について様々な角度から研究が進められている。これらの成果を活用し、より現実的な入力地震動の評価に繋げていくことは、耐震安全性の検討や防災対策において大変有益である。本シンポジウムでは地盤構造の評価ならびに地盤増幅特性の評価に焦点を当て、これらの現状・動向に関する認識を共有するとともに、将来に向けた課題について幅広い議論を行う。

日時 : 2018年11月2日(金) 10:00~18:00 ★終了時刻が当初の17:30から左記に変更になりました。

場所 : 建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

内容 (各講演の題目等は変更されることがあります)

司会: 神野達夫 (九州大学)・森川信之 (防災科学技術研究所)

1. 主旨説明 10:00~10:10 : 永野正行 (小委員会主査/東京理科大学)

2. 平成30年大阪府北部の地震・平成30年北海道胆振東部地震 10:10~11:00

2-1 平成30年大阪府北部の地震 : 上林宏敏 (京都大学)

2-2 平成30年北海道胆振東部地震 : 高井伸雄 (北海道大学)

3. 地盤構造評価の新展開と課題 11:00~12:40

3-1 地盤構造評価ベンチマークの概要と成果 : 大堀道広 (福井大学)

3-2 SPAC系微動アレとその適用範囲 : 長 郁夫 (産業技術総合研究所)

3-3 拡散波動場理論に基づく水平上下スペクトル比の概要とその適用例 : 松島信一 (京都大学)

3-4 地震波干渉法の概要・適用例 : 佐藤浩章 (電力中央研究所)

司会: 大野 晋 (東北大学)・高橋広人 (名城大学)

4. 地盤増幅特性評価の新展開と課題 13:40~14:55

4-1 常時微動H/Vピーク周期のばらつきに基づく基盤傾斜判定法の提案 : 元木健太郎 (小堀鐸二研究所)

4-2 スペクトルインバージョンによる地盤増幅特性の評価 : 仲野健一 (安藤ハザマ)

4-3 平均S波速度による地盤増幅特性の評価 : 三浦弘之 (広島大学)

司会: 松島信一 (前掲)

5. 特別講演 15:05~16:05

5-1 地盤構造と地震動増幅 —我々はどこから始めてどこまで掘り進んだのか? : 川瀬 博 (京都大学)

司会: 上林宏敏 (前掲)・川辺秀憲 (大阪大学)

6. 地盤構造評価の検証と活用事例 16:05~17:20

6-1 大阪平野・京都盆地の地盤構造モデル検証事例 : 浅野公之 (京都大学)

6-2 関東地域における広帯域強震動評価のための浅部・深部統合地盤モデルの構築 : 先名重樹 (防災科学技術研究所)

6-3 相模トラフの地震による地震動評価事例 : 佐藤智美 (大崎総合研究所)

司会: 引田智樹 (鹿島建設)・三浦弘之 (前掲)

7. 総合討論: 地盤構造評価の現状と課題 17:20~18:00

記録: 鈴木晴彦 (応用地質)

定員 : 180名 (当日会場先着順)

参加費 : 会員5,000円、会員外8,000円、学生3,000円 *資料代3,000円含む

問合せ : 事務局事業グループ 伏見 Tel.03-3456-2057

※別途有料にて、リアルタイム動画配信を実施します。視聴希望の方は下記URLからお申し込みください。
 なお、動画配信をお申し込みの方は、会場への参加・入室はできませんのでご注意ください。

▶ <http://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=615103>